

研究課題名	褥瘡対策リスク患者におけるトラマドール含有製剤の使用量調査
研究機関名	武蔵野赤十字病院
研究責任者	所属 薬剤部 氏名 土屋 博子
研究期間	(西暦) 2024 年 4 月 ~ (西暦) 2024 年 7月
研究の意義・目的	<p>令和4年度診療報酬改定において褥瘡対策の基準に「薬学的管理事項」が追加され、褥瘡対策に関する診療計画書に「褥瘡の発生リスクに影響を与える薬剤」の記載が求められるようになった。診療計画書の様式には催眠鎮静剤をはじめとした薬剤の記載欄が設けられている。</p> <p>トラマドールは現在、緩和領域および周術期において広く使われている鎮痛薬である。非麻薬性薬剤ではあるがその作用点は麻薬と共通しているため、副作用として傾眠、過鎮静、感覚の鈍麻などがあり、麻薬と同様に褥瘡の発生リスクに影響を与えることが予想される。しかしこれまでに、褥瘡対策患者におけるトラマドール使用の実態に関する報告はない。</p> <p>本研究は、褥瘡対策リスク患者におけるトラマドール含有製剤の使用量について調査分析を行いその実態を明らかにすることにより、褥瘡発生リスクを低減させることを目的とする。</p>
研究の方法 (対象期間含む)	<p>対象期間：2023年1月～2023年12月 対象者：錠期間中に当院に入院した患者の中で、褥瘡診療計画書（リスクおよびハイリスク患者）が作成された患者</p> <p>研究方法：対象者の診療録からトラマドール含有製剤の使用状況について後ろ向きに調査</p>
①試料・情報の利用 目的および利用方法	①利用方法：患者情報については個人が特定できないように患者ID・氏名を排除して行う。
②利用し、又は提供する 試料・情報の項目	②患者基本情報（年齢、性別、診断名、基礎疾患名、日常生活自立度） および治療内容（トラマドール含有製剤の使用状況）
③試料・情報の取得 の方法	③診療録より抽出
④利用する者の範囲	④研究責任者 薬剤部 土屋博子、共同研究者 看護部 看護師 比留間真子
⑤試料・情報の管理 について責任を有する 者の氏名又は名称	⑤研究代表者 土屋博子、武蔵野赤十字病院 院長 泉 並木
問合せ先	<p>当研究に自分の試料・情報利用を停止する場合等のお問合わせ</p> <p>〒180-8610 東京都武蔵野市境南町1-26-1 武蔵野赤十字病院 所属 薬剤部 氏名 土屋博子</p> <p>TEL：0422-32-3111（代表）6812（事務局内線） FAX：0422-32-3525</p>